

普及活動情勢報告（令和2年2月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

キュウリ若手生産者による交流・第1弾・・・JA大方支所キュウリ若手勉強会・・・



1月24日、黒潮町農業公社で、JA大方支所の若手キュウリ生産者を対象に勉強会を開催し、生産者、農業公社研修生の7名と農業公社指導員、JA営農指導員の計13名が参加しました。

生産者はすでに炭酸ガス施用に取り組んでいますが、改めて環境制御の基本を研修し、具体的な制御方法にも触れることができ、今後の環境制御への関心の広がりや生産者同士の交流につながる内容となりました。農業公社指導員からの補足説明もあり、具体的なイメージづくりが進んだようでした。

今後も、関心のあるテーマについて生産者からの声を拾い上げ、情報提供と意見交換を続けていく予定です。

新たな農事組合法人を設立・・・（農）四万十利岡FARM・・・



1月26日、四万十市利岡集落において、組合員17名、関係機関9名が参加し、『農事組合法人 四万十利岡FARM』の設立総会が行われました。利岡集落では、基盤整備に取り組んでおり、基盤整備後の担い手として設立した法人で、四万十市では5番目、幡多管内では14番目の法人となりました。

組合員数27名、R2年度の栽培面積は約3haで、5年後には22haを集積し、水稻や野菜（ショウガ、ブロッコリー、ニラ等）栽培を行う計画です。

農業改良普及課は、法人の経営安定に向けて栽培指導や経営管理の支援を行っていきます。

土づくりと病害虫防除について・・・宿毛支所シシトウ部会栽培講習会・・・



1月30日、JA高知県宿毛支所でシシトウ部会栽培講習会が開催され、生産者12名が参加しました。JA営農指導員からは、シシトウの栽培管理について栽培マニュアルを元に説明がありました。また、農業改良普及課からは、土づくりの基礎と病害虫防除について情報提供を行いました。

生産者からは、主要な病害防除対策などについて、活発な質問がされました。

農業改良普及課は、今後も栽培講習会などを通して生産者の栽培安定を支援していきます。

ハウス内・外環境を見直そう！

・・・三崎支所園芸部キュウリ勉強会・・・



1月31日、JA高知県三崎支所でキュウリ勉強会を開催し、生産者5名が参加しました。勉強会では、篤農家2名の環境データを解析し、キュウリの草勢、今後の管理について検討しました。また、土佐清水で整理整頓を行ったGAPの取組事例を紹介しました。

生産者からは、温湿度管理についての質問が多く、早朝加温や換気の仕方を見直したいといった声が出ました。GAPについては身近な取組事例を学ぶことで、「整理整頓から始めたい」といった前向きな意見が出ました。

農業改良普及課は、今後も生産者同士で検討・学ぶ機会を増やし、栽培技術向上やGAPの意識が高まるよう取り組んでいきます。

ユズ樹へ ‘栄養剤の点滴’ をしました！

・・・三原村農業公社ユズ園での液肥灌注・・・



2月4日、三原村農業公社ユズ園の造成地にあるユズ樹にアミノ酸入り液肥の灌注を指導しました（3名）。土壌が硬く生育不良の園の改善に、農業改良普及課がかねてから勤めていたものです。初めはエア吸入口からの液の噴出や、硬い土壌による貫入困難がありましたが、鉄杭で予め穴を空けることでうまくいくようになりました。後日、他の造成地の幼木にも灌注が実施され、そこではスムーズに作業ができました。

今後、新規就農者リース園の生育改善に向けての機械リースも検討し、新規就農者の経営安定を支援していきます。

基盤整備課との連携活動

・・・加持地区（黒潮町）ほ場整備計画区域土壌試坑調査・・・



2月5日、黒潮町加持地区で検討を進めているほ場整備事業の計画策定に必要な土壌試坑調査を実施しました。コンサルタント会社と黒潮町役場、地区内生産者、幡多農業振興センター（基盤整備課・農業改良普及課）が参加し、調査手順や土壌の状況について確認しました。

ほ場の代表的な地点をバックホウで掘削し、コンサルタント会社の調査員が各層の厚さや湧水面の深さ、土性などについて調査しました。農業改良普及課からは土性の判別や土壌改良の必要性について助言を行いました。

農業改良普及課では、今後も基盤整備課と連携して基盤整備事業に係る営農計画の策定や整備後の生産活動支援を行っていきます。

炭酸ガス施用1作目での驚きと発見！

・・・JA大月支所施設園芸部会・・・



2月5日、大月町の施設ナスほ場で現地検討会を開催し、生産者10名が参加しました。

今作から新たに1名が炭酸ガス発生機を導入しており、ほ場での生育調査結果や病害虫の発生状況を報告しました。

園主からは「側枝の芽吹く時期が導入前と比べ早く、2月以降が楽しみ」、「条件が不利な場所だからこそ環境制御をするべき」との感想が聞かれ、参加した生産者は関心を持って聞いていました。

今後も検討会等の場を設け、情報を共有することで、栽培技術の向上及び収量増加に繋がるよう取り組んでいきます。

苗半作、良質な苗を作しましょう

・・・水稻育苗講習会・・・



2月12日、JA高知県宿毛支所で、水稻育苗講習会を開催し、生産者14名が参加しました。

農業改良普及課からは、水稻育苗の基礎管理を中心に説明しました。参加者からは、「JAから購入した種子でも、必ず塩水選をしなければならないか」、「土づくりのために堆肥を入れる時期はいつか」など熱心に質問が出されました。

今後、参加できなかった水稻生産者にも、講習会で配付した資料をJA購買部で配布、周知してもらい、より多くの水稻栽培者が良質米の生産ができるよう支援していきます。

農福連携による集出荷場での労働力確保

・・・ニラの出荷調製見学会・・・



2月14日、黒潮町においてニラ出荷調製作業の見学会を開催し、管内から6福祉事業所の管理者や指導員が参加しました。

まずニラ生産者の作業場で、出荷調製作業について営農指導員から説明を受け、そぐり、計量、結束作業を見学しました。その後、JA大方支所集出荷場で出荷作業を見学し、集出荷場での就労について意見交換しました。福祉事業所からは、「計量結束はできそうだが練習が必要」、「作業場を中村支所にも作ってほしい」、「事業所間の日程を調整するコーディネーターが必要」などの意見が出ました。JA高知県大方支所では、10月からニラの出荷調製作業を計画しており、農業改良普及課は、農福連携の取り組みを進めるため、他の事業所への周知、出荷調製の練習など、10月からの就労にむけ、活動を支援していきます。